

第4回第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会
議事概要

日時 令和4年9月9日（金） 13:30～15:30

場所 高知城歴史博物館1階ホール

出席者 【委員】

古谷純代（委員長）、安藤浩二（副委員長）、黒瀬裕之、北村和代、中田陽子、森恒一郎、
亀川代平、藤原哲、笹岡和泉、石筒覚、梶原太一

【オブザーバー】

吉良善邦（代理出席）、山下修、福留正充（代理出席）、山本聡、岡林成海、松村和明

次第 1 開会 2 議事
3 その他 4 閉会

1 開会

2 議事

○議題

第三期高知市中心市街地活性化基本計画の検討

(1) コンセプト、目標指標及び参考指標の検討

○主な質疑等

※次の文言については省略して記載します。

中心市街地活性化基本計画→中活計画

(委員)

中心市街地の居住人口の指標について、第三期中活計画で拡大するエリア分の人口については加味されているか。

(事務局)

居住人口の計測は町名ごとの人口の合計により算出しており、今回拡大するエリアの北本町1丁目と菜園場町は第二期計画で計測している町名に含まれていることから、目標指標の積算に影響はない。

(副委員長)

空き店舗数の指標で営業店舗増加分の50%が空き店舗に活用する設定について、空き店舗と空地の区別はあるのか。空地に店舗が建った場合はプラス1店舗と数えるか。

(事務局)

空き店舗調査は1階路面店を調査対象としているため、営業店舗増加分の内、住宅や空き地が店舗となった場合は空き店舗の解消としてみなさないことを踏まえ、空き店舗率の改善につながるのは営業店舗増加分の50%と設定している。

(委員長)

宿泊者数の目標設定について、事業者の立場からすると、コロナ前と比較し、令和9年度の目標値は実現が十分可能な数値と思われる。

(副委員長)

商店街の歩行者通行量調査について、現在、自動計測システムの導入を検討中である。そうすると、計測数値は現在の調査と差が出てくると思うがどのように対応するか。

(事務局)

県の主導により歩行者通行量自動計測システムの導入について検討会を今月から開催し、推進していく予定である。現状の目標積算数値は従前の計測方法を想定したものであるため、新しいシステムが稼働する場合、指標の設定および数値測定について再検討する。

(副委員長)

歩行者通行量自動計測システム導入により、得られるデータを個店が活用するのは努力が必要である。一方でよさこいや商店街の各種イベントでの毎年の通行量を把握することもできるので、商店街のためだけでなく、市の施策の実施において参考になる数値になると思う。ぜひ進めていただきたい。

(委員)

目標指標について、市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合から、中心市街地の居住人口の実数になったことで、わかりやすくなって良いと思う。目標値の積算について、例えば藤並公園の整備により居住人口が5%増加する設定になっている。5%という数値は、過去の事例等に基づいたものか、数値設定根拠を教えてください。

(事務局)

5%はあくまで目標を掲げる上で仮定した数値として設定している。

(委員)

第三期中活計画における目標数値と実績値の差異を分析することで、今後の新たな目標積算に活用できるのではないか。

(委員)

中心市街地の居住人口の目標値積算の中で、公園整備による居住人口の増加の要因として、具体的な材料があるとよいが、あれば教えてください。

(事務局)

新たな場所で居住する場合、交通や買い物の利便性、自然環境、高齢者であれば医療機関が近隣に存在すること等の条件が考慮される。中心市街地においては、丸ノ内緑地、藤並公園の整備が進捗しており、その他にも第三期中活計画に登載する新たな事業で、居住者と商店街の店舗とのマッチング支援等も取り組んでいく。こういった施策を進めていくことで住環境の良さを感じてもらい、居住人口が5%増加すると仮定し、設定したと数値ということでご理解いただきたい。

(委員長)

目標値の積算については、一つの事業だけで積みあがるのではないことをご承知いただきたい。

(委員)

コンセプト案の「おまち」について調べてみると、高知市の中心部に位置し、東と南の境界線は電車通り、北と西の境界線は意見が分かれているが北が追手筋、西は大橋通りやひろめ市場あたりなど帯屋町アーケードが「おまち」の範囲としてまとめられているものがあつた。一方で、高知市内がすべて「お

まち」という意見もあり、「おまち」の範囲の認識は人それぞれであるため、本計画のコンセプトの「おまち」をどう捉えるか考える必要がある。それを考慮するとコンセプトの文言は「まち」としてみてはどうか。

(事務局)

平成 23 年に東西軸エリア活性化プランという計画を策定しており、それをベースに第一期高知市中活計画を策定している。その時から「おまち」という言葉を使用してきた。ご意見いただいたように、「おまち」は、様々な捉え方があると思うため、定義づけは必要であると考えている。

(副委員長)

中活計画の中で、計画のエリアを設定しているので、「おまち」という言葉を使ってもさほど問題はないと思う。

(委員長)

副委員長から、中活計画中にエリア設定があるので、「おまち」という言葉に定義づけ等は必要ないのではないかとの意見があったが、異論はないか。

<委員全員>

異議なし。

(委員)

目標値について、全体的に最低限のラインで抑えられていると感じた。

飲食店は、近年では物価高で厳しい状況である。新規出店者数について、新規出店が空き店舗の活用も含めて年間 15 店舗もあるのか。市の空き店舗活用創業支援事業を活用して出店した事業者の継続率がわかれば教えてほしい。

(事務局)

空き店舗活用創業支援事業を活用した事業者は、平成 29 年度から令和 3 年度までの 5 年間で 78 事業者、昨年度末の調査ではその内の約 82%の 64 店舗が継続している。平成 23 年度からでは、113 事業者の内の約 73%にあたる 83 事業者が継続している。

(委員)

目標指標やコンセプト等の記載について、どうしても全体的に健常者目線を感じる。障害や高齢の方、子連れの方に対してどのような取組をするから数値の増加に繋がるというような視点があると良い。直接的に文言を入れる方がよいのか難しいが、多様な方々が自分も受け入れられていると感じるような視点が入るように文章に盛り込んでいただきたい。

(事務局)

ご意見をいただいた内容について、計画書中の文言や登載事業の具体的な内容の中で盛り込めるよう検討したい。

(委員)

資料 1 の P10 の空き店舗数の推移について、空き店舗は毎年 100 店舗前後で推移しているが、この 10 年間ずっと空いている店舗はあるか。

(事務局)

肌感覚であるが、中心市街地でも5～6年空いたままの店舗があると思われるが、商店街ごとの件数等、詳細には把握できていない。

(委員)

空き店舗を調べた結果、5～10年ずっと空いているというものがあると、その店舗自体が借主の事業者を利用しにくい状況になっていると思う。環境を改善できるような取組支援があるとよい。

(委員)

目標1の設定について、コンセプトに「働く」視点があり、これをどう捉えるかが課題と考える。中心市街地の事業所数は年次のデータで取ることは難しいため、それ以外で「働く」を指標としてとらえるかできないか。例えば、生産年齢人口が増加しているという点で判断をするか、または、昼間人口の結果から働いている人を整理できないだろうか。また、店舗以外でも働く人もいる。「働く」という数値をどこかで補えないかと考える。一番良いのは就業者数がみえるとよいが、多少工夫が必要と感じた。

また、参考指標について、営業店舗数と空き店舗数の整合性について整理しておくとうい。営業店舗数は施策の実施がなかった場合、令和9年度までに16店舗減るという推計だが、空き店舗数は令和9年度までに4店舗増加するという推計になっている。意味合いの違いはあると思うがその説明が必要である。資料1のP7で、新規店舗が85店舗増える一方で空き店舗はそこまで減っていないという印象になっている。店舗数の推計と空き店舗の推計、また、新規店舗の推計をしているが似たような要素を対象としているため、データ自体は積算根拠が違うと思うが、相互に関連している部分があれば分かるように整理するとよい。

(委員長)

目標数値については事務局で精査いただき、根拠が示せるようにお示しいただきたい。

(2) 登載事業について

○主な質疑等

(副委員長)

資料1のP17、事業17のクールチョイスについて、アーケード屋上への太陽光発電設置は暗くなるので設置は難しい。また、構造的にも厳しいと事業者から言われている。また、小型の風力発電ができないか相談したが、街中の風力発電はやめた方がよいとも言われている。アーケードを管理している者として課題は多いと考える。

(委員)

資料1のP19、事業22の地域通貨の発行について、インバウンドの観光客を受け入れるにあたっては、キャッシュレスは必須となっている。キャッシュレス決済について前回計画でなぜうまくいかなかったか考えながら本計画では推進していただきたい。

(事務局)

コロナ前からクレジットカードはもちろん、事業者の皆様は様々なキャッシュレスを導入し、説明会なども参加されてきたと思う。ネックになるのは入金リードタイムと手数料であり、どのシステムを入れると良いか検討している。現在キャッシュレス導入に関して、市内限定の地域通貨を安価で実施する方法を中心に研究している。引き続き検討していくのでみなさまの意見を聞きながら前に進めていきたい。

(副委員長)

資料1のP16、番号4のレンタサイクルについて、旅館組合や駅前にもレンタサイクルがあるが、増強したらどうかということで提案した。高知にとって一番お金が落ちることは観光であると考えて。しかし、高知市に入っても市外にでるケースが多い。旅館ホテルは商売になればよいが、高知市そのものの魅力の向上が課題と考える。高知市の観光としての魅力アップを繋がるために、一時的なものでなく、まちを綺麗な魅力あるものにする、また、ハブ機能として高知市を拠点に動いてもらえるような機能や設えを積極的に準備する必要がある。

最近の事業として、市民向け、観光向けのイベントの実施が多いように感じるが、足元を強化するような観光政策が必要だと思う。委員から提案されたメニューも全てできる話ではない。高知市の観光政策についてきっちり踏み込み、観光の魅力を創造するための長期的な計画も検討すべきであると考えて。

ミュージアム関係も全てが人を集めているわけではない。牧野植物園にしても設備投資し機能拡充されているが、ピークは存在する。いつまでも日曜市やひろめ市場、坂本龍馬、桂浜だけでは生きていけないため、市全体でパワーアップすることが必要である。そこまでは委員アンケートに書ききれなかったもので、委員会で議論が必要であると思う。

(委員長)

旅館ホテル組合のそれぞれの事業所で保有するレンタサイクルは利用率が高く、宿泊予約を入れた段階でレンタサイクルも予約をいただくが、台数に限りがあるため、予約は受けず、到着順に利用いただいている状況である。まちなかにレンタサイクルがあれば回遊し、バスやタクシーとは違ってゆっくり散策できるため、この事業を登載できるように考えたい。まちなかにレンタサイクルのステーションがあれば観光客だけでなく、市民の利用も高まると考える。

(委員)

シェアサイクルについて、9月議会で出されていて、今年度中にスタートすると聞けるが、どのような事業になるのか。

(事務局)

有料で自転車を貸し出すシェアサイクル事業を、今年度中に小規模でスタートする予定である。30台の自転車を導入し、サイクルポートを中心市街地エリア内に5カ所設置できるよう調整している。観光客のみならず、公共交通と併用し、シェアサイクルで中心市街地を周遊し、日常的に使っていただけるような仕組みにしたい。広告費を確保し、PRもしっかりしていく。

(委員)

シェアサイクルは乗り捨てるのではなく5カ所のサイクルポートの中を周遊するイメージでよいか。また、全てのサイクルポートに30台設置できるのか。

(事務局)

サイクルポート全てに30台置けるわけではないが、一定の台数は設置できるようにする。自転車の台数が偏らないように再配置を地元事業者さんをお願いする。神戸や広島、高知県内でも四万十町が導入している。都市型のシェアサイクルと違ったかたちになると思うが、参考にしながら今後どういう風な形になるか検討を進めていきたい。

(委員)

委員アンケートにより、公共交通に関連する事業を多く提案いただいている。公共交通利用促進事業

で検討するというのはどれくらいのスパンで議論し、いつまでに結論を出すことを想定しているのか。

(事務局)

中活計画の5年間で提案された事業が全てできるかはわからないが、中活計画に登載している事業で市が実施するものは、年度ごとに予算編成の中で、個別の事業について実施可否の判断を進めていく。

(委員)

これまではバス停整備や、新型コロナウイルス感染症の影響でできなかったが、公共交通利用促進の事業があったが、年度ごとに公共交通利用促進事業の中で実施事業の検討をしていくとすると、とさでん交通や高知市の中では交通戦略課も議論の中に入るのか。

(事務局)

第三期中活計画について、すべての事業を商工観光部担当になるものではなく、公共交通利用促進事業については、交通戦略課の方で検討して予算化し、事業を進めることを想定している。

(委員長)

オブザーバーからここまで何か意見はあるか。

(オブザーバー)

P8の歩行者通行量とP11の拠点施設入館者数の目標値設定について、コロナ前の水準を考慮するともう少しチャレンジしてもよいかと思う。

(事務局)

宿泊者数はコロナ前の令和元年を基準にしているが、コロナにより買い物の仕方まで変わった現状もある。歩行者通行量についてはこのようなトレンドを踏まえ、目標値として設定している。ただ、コロナ前までの水準に戻すことは命題として、取り組んでいきたい。

(3) 新規事業について

○主な質疑等

(副委員長)

資料1のP14の番号11「学生×中心市街地」魅力発信事業について、どのような学生を想定しているのか。

(事務局)

高知県商店街振興組合連合会が「高知おまち学園」という事業を実施しており、例えば高知大学の学生や、高知県立国際中学校・高等学校の生徒と連携し、ワークショップ等の取組をしている。今後、こういった取組と合わせて、商店街による大学生や高校生を対象としたイベントを実施してきたいと思う。

(中央会 高知おまち学園担当者)

「高知おまち学園」について、数年前に開始後、最近はコロナの影響で活動が進められていなかったが、おまちでやりたいことについてオンラインによる勉強会を行っている。具体的には商店街のオンラインツアーや、SDGsの導入等を検討した。今年の活動として、商店街で7月に開催された土曜夜市に高校生が中心になり新京橋商店街で出店を行う等、少しずつまちに関わっている。今後はおまち学園に参加する第2期生も募集し、ショップインショップや、SDGsに関するイベント実施等、カリキュラムを組み、商店街の若手事業者と一緒に活動できないか考えていきたい。

(委員)

グリーンロードの整備については第三期中活計画の新規事業に含まれないのか。

(オブザーバー)

グリーンロードについて、ほこみち制度を活用した整備を行い、追手筋南側エリアで屋台営業ができないか検討しているが、屋台業者や地元の方と調整している状況である。

(事務局)

新規事業を除いた個々の事業については説明を省略しているが、資料2の「7. 商業活性化等、経済活力向上に寄与する事業」内の「まちなか空間有効活用事業」において、ほこみち制度を活用したグリーンロード整備の具体的な計画が決まれば、予算措置を進めていきたい。

(委員)

様々なイベントの実施も重要だが、毎週毎月開催し、いつ来ても楽しめる、継続的な事業になると良い。歴史文化の分野についても、中心市街地にはいい名称や石碑があるが、マニアだけでなく一般の人にも分かりやすくライトアップして表示する等、映えるスポットとして整備できれば、資産として今後も残すことができ、旅行会社としても誘客促進につながると思うので、事業に盛り込んでほしい。

(オブザーバー)

シェアサイクル事業に関連し、電動キックボードについては令和6年に法改正され、特定小型原付として免許不要、制限速度は時速20km以内というような取扱いになる。自転車もキックボードも通れるような規制案を検討しているので、シェアサイクル事業を実施する際は場所等情報共有をいただければと思う。また、電動キックボードに関する事業を実施する際は、安全面等について事前に協議をお願いしたい。

(副委員長)

帯屋町2丁目に整備された OKAMURA ビルに IT 系のオフィスが入居する等、オフィス関係についても大きな動きがあるため、動向を把握し、「働く」に関連する参考指標に、可能などころは情報として補完していくよう検討いただければと考える。

(委員)

資料1のP14の新規事業「空き店舗を活用した創業支援サポート事業」について、移住者を想定した支援メニューとあるが、従前のチャレンジショップ事業等と比較してどう違うのか。また、「お買い物マッチング事業」の内容についても具体的に教えていただきたい。現在コロナの影響で、お客さんが少ない、戻ってこない状況もある。その中で、今後、観光客が戻ってきたときに夜の経済のポテンシャルは大きいと考えている。昼の経済とのバランスや、夜の経済でどのくらいのポテンシャルを考えているか教えていただきたい。

(事務局)

高知に移住する際の最大の課題は仕事であると考えており、「自分で起業したい」、「中心市街地で出店をしたい」という方に対し既存の支援は家賃補助だけであったが、上乘せとして、不動産の借入資金等のイニシャルの支援ができないか検討している。

お買い物マッチング事業について、近年増えているマンション居住者をターゲットに、いかに買い物をしやすくするかの観点から、商店街店舗の商品と居住者のマッチングに取り組みたいと考えている。資料1に記載しているように、情報の一元化からスタートするのもかもしれないが、配達まで視野に入れて事業化できないかも含めて検討していく。

夜の経済対策の一つとして、観光客を高知市の中心部に呼び込むことを目的に、ナイトタイムエコノミーを推進していく。特に観光客の減少する冬季について、イベントを実施予定であり、県が高知城で実施する夜間イベントや、高知市観光協会でも10月から高知城で夜間のイベントを実施予定である。

市の独自施策としては、中央公園でクリスマスの時期に10日間程度実施予定のクリスマスマーケットを企画しており、毎年できるよう検討している。

中活計画エリアに洗練されたスポットや街並み等、高知としての観光のキラーコンテンツがない点が課題であるとする。来年度は観光振興計画の改定もあるため、改めて高知の観光を考えていきたい。コロナで落ち込んだ来街者数や観光客をいかに回復させ、さらに増加させていくかを中期的なスパンで検討していきたい。

(委員長)

これからまちはどんどん変わっていくと思うが、事業者としては周辺の建物の取り壊しや空き地ができる、何ができるのかという期待や、影響を受けるかもしれないという不安が交錯し、コロナの影響もあり苦しい思いもするが、まちが生まれ変わるにはそうした思いが交錯しながら進んでいくものだと実感している。今回議論に上がった事業が中活計画に登載され、順調に進捗すれば、コロナの影響を受けた中心市街地の状況もよくなっていくと思う。委員のみなさま、本日は熱心に議論いただきありがとうございました。

3 その他

4 閉会

以上